

第1回最上地域病床機能調整ワーキング(H28.12.7)報告

1 今後の検討に係る基本的な考え方（ワーキング合意事項）

- (1) 地域医療構想では、病床機能の分化・連携について、“各医療機関が自主的に取り組む”ことを基本としていることから、病院ごとに「急性期病床〇〇床を削減する」などの機械的な割り当ては行わない。
- (2) 最上地域の医療体制において各病院が果たすべき役割や医療機能及び今後の各病院の運営ビジョン等を踏まえ、病院相互並びに管内医療機関等との連携体制のもと、地域に必要な入院機能等が確実に確保されるよう検討を進める。
- (3) 病床機能報告では「病棟単位で入院機能を報告すること」とされていることから、重点的な検討テーマとなる急性期病床について、各病院が実際に受け入れている各病院の入院患者像を定量的に把握（別紙参照）し、情報共有を図りながら、最上地域の今後の患者動向や疾病構造の変化等に対応した入院機能ごとの必要病床の確保を図る観点で検討を進めていく。
また、今後の病床機能の確保においては、退院後等の在宅医療体制と密接に関わることから「地域医療構想調整会議在宅医療専門部会」の検討状況も踏まえながら協議していく。

2 病床機能調整ワーキングにおける委員等からの主な意見

- ・ 病棟単位で「急性期」か「回復期」のいずれか一つを選択することは困難。
- ・ 急性期病床だが、急性期の患者だけでなく様々な要因で入院している患者を受け入れている。
- ・ 急性期病床を（回復期病床となる）地域包括ケア病棟に転換することも考えているが、（国から）ハシゴをはずされないか不安。
- ・ 看護師の確保が厳しく、現状の病棟を維持できるかが喫緊の課題。
- ・ 一つの病棟を介護付き有料老人ホームに転換することを検討している。
- ・ （事務局）急性期病床の転換については、「病院経営」「施設基準の充足（新たな人的配置等）などの多面的な検討が必要

3 今後の検討の進め方

- (1) 本報告に基づき地域医療構想調整会議において委員から意見を伺う。
- (2) 第1回病床機能調整ワーキングにおける協議内容や現在検討中の町立病院改革プランなどの病院運営ビジョン等を踏まえ、検討項目の絞り込みを行い、第2回以降のワーキングを開催する。
- (3) 必要に応じ、事務局と関係病院と個別協議の場を設ける。

H27年度病床機能報告における病院の病床利用率の状況(H26.7.1～H27.6.30)

資料 5-2

no	区域	基幹病院等	病院名	病棟名	病床機能報告(H27.7.1)	許可病床数(H27.7.1 A)	稼働病床数(H27.7.1)	未稼働病床数(H27.7.1)	病棟部門の職員数	主とする診療科			在棟患者延べ数(H26.7.1～H27.6.30)	病床利用率(H26.7.1～H27.6.30)	構想病床利用率での割戻B	B-A	
										診療科	複数科の場合の上						
											①	②					③
57	最上	○	山形県立新庄病院	第1病棟	急性期	46	43	3	29.3	複数	消内	小児		11,867	75.6%	42	△ 4
57	最上	○	山形県立新庄病院	第2病棟	急性期	43	43	0	29.3	複数	消内	産婦		10,616	67.6%	37	△ 6
57	最上	○	山形県立新庄病院	第3病棟	急性期	40	40	0	25.3	整形				12,093	82.8%	40	0
57	最上	○	山形県立新庄病院	第5病棟	急性期	59	55	4	29.3	複数	外科	消内	泌尿	13,588	67.7%	48	△ 11
57	最上	○	山形県立新庄病院	第6病棟	回復期	40	38	2	22.7	複数	内科	整形		5,741	41.4%	17	△ 23
57	最上	○	山形県立新庄病院	第7病棟	休棟等	53	52	1	0.0	複数	内科	循内		10,806	56.9%	52	△ 1
57	最上	○	山形県立新庄病院	第8病棟	急性期	58	53	5	29.3	複数	呼内	耳鼻	形成	14,337	74.1%	50	△ 8
57	最上	○	山形県立新庄病院	第10病棟	急性期	52	50	2	28.3	複数	脳外	呼内	眼科	12,836	70.3%	45	△ 7
57	最上	○	山形県立新庄病院	第11病棟	急性期	56	54	2	29.3	複数	循内	腎内		15,626	79.3%	54	△ 2
57	最上	○	山形県立新庄病院	集中治療室	高度急性期	5	4	1	17.0	外科				796	54.5%	3	△ 2
58	最上		町立真室川病院	内科・整形外科病棟	急性期	55	55	0	30.2	複数	内科	整形		17,382	86.6%	55	0
59	最上		最上町立最上病院	一般病棟	急性期	50	50	0	28.0	内科				15,716	86.1%	50	0
59	最上		最上町立最上病院	療養病棟	慢性期	20	20	0	16.0	内科				6,917	94.8%	20	0
60	最上		新庄徳洲会病院	2階病棟	急性期	58	58	0	22.5	複数	内科	外科	歯口	12,733	60.1%	45	△ 13
60	最上		新庄徳洲会病院	3階病棟	慢性期	48	46	2	21.1	内科				9,410	56.0%	28	△ 20
60	最上		新庄徳洲会病院	4階病棟	慢性期	60	54	6	21.0	外科				13,175	66.8%	39	△ 21
60	最上		新庄徳洲会病院	5階病棟	急性期	60	54	6	23.0	内科				13,798	70.0%	48	△ 12
60	最上		新庄徳洲会病院	6階病棟	回復期	44	39	5	22.3	複数	内科	外科		10,058	70.7%	31	△ 13
県計						11,086	10,651	435	7,170				3,117,438	80.2%	9,890	△ 1,196	
村山						5,618	5,407	211	3,664				1,577,991	80.0%	5,023	△ 595	
最上						847	808	39	424				207,495	70.4%	704	△ 143	
置賜						2,083	1,993	90	1,268				597,183	82.1%	1,854	△ 229	
庄内						2,538	2,443	95	1,815				734,769	82.4%	2,309	△ 229	

※病床利用率: 在棟患者延べ数÷365日÷稼働病床数

※町立真室川病院について、在棟患者延べ数について、616→17382に修正。

※構想病床利用率での割戻: 病床利用率が構想算定上の病床利用率(高度急性期75%、急性期78%、回復期90%、慢性期92%)を下回った場合、この利用率で割戻した病床数。

「急性期病床」の入院患者像実態調査

◎ 地域医療構想策定ガイドラインに基づく分類

	急性期	回復期	慢性期
医療資源投入量	600点以上	175点以上	175点未満
県立新庄病院（急性期病床数：354床）	61.3 %	25.6 %	13.0 %
最上町立最上病院（同上：50床）	37.1 %	33.3 %	29.6 %
町立真室川病院（同上：55床）	44.2 %	35.7 %	20.1 %
新庄徳洲会病院（同上：118床）	54.1 %	33.1 %	12.8 %
入院実態から算定した病床数	323 床	167 床	87 床
全体の病床数	577 床		